



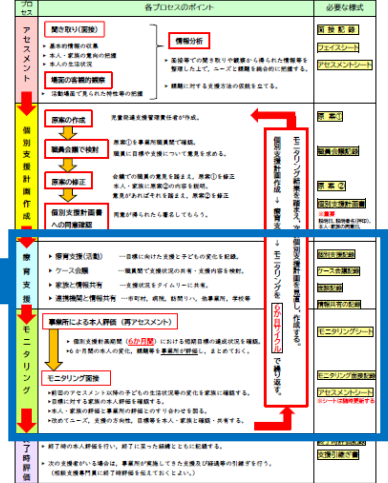
こども支援アセスメント通信 vol.5



最終号では、個別支援計画に沿って提供する「療育支援」と、その支援成果を振り返り検証する「モニタリング」についてお伝えします。

療育支援	<ul style="list-style-type: none"> 療育支援(活動) …目標に向けた支援と子どもの変化を記録。 ケース会議 …職員間で支援状況の共有・支援内容を検討。 家族と情報共有 …支援状況をタイムリーに共有。 連携機関と情報共有 …市町村、病院、訪問リハ、他事業所、学校等 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援記録 ケース会議記録 面談記録 情報共有の記録
	<p>事業所による本人評価(再アセスメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画期間(6か月間)における短期目標の達成状況を確認。 6か月間の本人の変化、課題等を事業所が評価し、まとめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングシート
モニタリング	<p>モニタリング面接</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回のアセスメント以降の子どもの生活状況等の変化を家族に確認する。 目標に対する家族の本人評価を確認する。 本人・家族の評価と事業所の評価とのすり合わせを図る。 改めてニーズ、支援の方向性、目標等を本人・家族と確認・共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング面接記録 アセスメントシート ※シートは随時更新する

児童発達支援・放課後等デイサービスにおけるサービス提供プロセス



活動は支援の「手段(方法)」です

個別支援計画で設定された目標を達成するため、多くの事業所では集団による様々な活動プログラムを提供しています。集団活動では皆が同じ活動をするという設定が多いですが、活動内容は皆同じでも、一人一人の活動における目標は違うことを意識して関わっていますか？

例えば「粘土遊び活動」で、作品を完成させられるお子さんがいる一方、作品は作れないけれど粘土に触れるようになることを目指すお子さんや、10分間椅子に座って活動に取り組めることを目指すお子さん、また集団の場に慣れることを目指すお子さん等、同じ活動でも一人一人の目標は違ってきます。このことを職員皆がしっかり意識して関わるのが大事になります。

活動はお子さんの個別支援計画の目標を達成するための支援の「手段

(方法)」です。目標達成に向けて、どのような経験を通してお子さんに学んでもらいたいのか、そのためにはどのような活動を提供すれば効果的なのか、ケース会議等で検討し、職員間で共通認識して日々の支援を行っていきましょう。



個別の環境なら取り組めるというお子さんもいます

支援記録を見直してみよう

個別支援記録は「活動内容」ではなく「支援内容」を記録するものです。また、支援記録を家族への連絡帳と兼ねている事業所もありますが、連絡帳はその日のお子さんの過ごし方を家族に伝え共有する手段ですが、支援記録は職員が支援した内容と結果及びそれについての考察を記録するもので、モニタリングにおける目標達成度の評価の根拠になるものです。

モニタリングに活かされる記録はどちらでしょう

○月○日()15:00~17:00
宿題の後、おやつ(マドレーヌ)を食べました。
活動はリズム体操と紙粘土をしました。紙粘土では集中し怪物を作り完成できました。
帰りの会では司会を担当し、みんなの前で大きな声で行うことができました。(担当:□□)

[短期目標]
10分間椅子に座り活動できる。
○月○日()15:00~17:00
リズム体操で身体をたくさん動かし紙粘土活動を行ったところ、7分間集中して取り組めた。ドアの音で集中が途切れ、立ち歩く場面が見られたが、声かけですぐに座ることができた。
⇒音の環境への配慮が必要。(担当:□□)

事業所の支援記録について、その目的、内容、書き方を一度見直してみませんか？

事業所の支援を振り返る(モニタリング)

モニタリングでは、個別支援計画の期間(概ね6か月)に支援を実施した結果、お子さんがどのように変化してきたか、短期目標はどのように達成できたか、引き続き支援が必要な課題や新たに見えてきた課題は何か等、まずは事業所職員間で意見を出し合い、自分達の支援経過の振り返りを行います。その内容を「モニタリングシート(報告書)」としてまとめ、本人・家族との「モニタリング面接」を実施します。

モニタリング面接は、本人・家族、事業所それぞれの評価をすり合わせ、今後の支援の方向性を再確認するという大事な作業です。面接では「モニタリング面接記録」を必ず作成し、次の個別支援計画に反映させていきます。

計画は現状に合わせて修正するものです

「お子さんに変化が見られず、短期目標も達成されていなかったため、次の計画内容はそのまま継続としました。」という話を聞くことがありますが、個別支援計画の内容が変更されないということは、本来あってはならない話です。

なぜなら、お子さんは日々成長し変化しているうえ、お子さんに対して働きかけを行い、変化を促すことが療育支援だからです。もし、お子さんに変化が見られなかったのであれば、観察スキルが不足しているか、その目標や支援方法がそのお子さんの状況に合っていないからではないか等、いろいろな要因が考えられるはずで

また、目標がすでに達成されているにもかかわらず、目標や支援内容を変更しないで継続している計画も見られます。これは、事業所を運営していく上でごく当たり前の支援を目標に設定している計画に多く見られます。(通信第3号『事例2(1)個別性のある目標を設定する』を御参照ください。)

モニタリングでは、目標の達成状況とその要因をよく分析・考察した上で、計画を見直し、お子さんの現状に合った計画内容に修正していきましょう。



職員で要因を分析し、計画の修正について検討します

情報共有に向けて自分から一歩動き出そう

これまで個別支援計画作成の各プロセスについてお伝えしてきましたが、どのプロセスにおいても、関係者間で情報を共有し、支援の方向性について合意を図ることがとても重要です。特にお子さんの支援に関係する機関は、医療、福祉、教育、行政と多領域に渡っているため、それぞれの立場からの情報をしっかり共有して、お子さんを多面的にサポートしていくことが求められます。

もし「〇〇さんの支援について、ぜひ情報共有させていただきませんか」という連絡がきたとしたら、どのような気持ちになりますか? 「ぜひお願いします」と前向きに受け取る方が多いのではないのでしょうか。相手からの連絡を待つだけでなく、連携に向け自分から一歩動き出してみませんか。

★5回に渡り通信をお読みくださりまして、ありがとうございました。

★今回、通信に関するアンケートを送付させていただきました。皆さんの御意見や御感想をお聞かせいただくと嬉しいです。よろしく申し上げます。

[発行・問い合わせ先]

宮城県仙台保健福祉事務所 健康づくり支援班
〒985-0003 宮城県塩竈市北浜4丁目8-15
TEL/FAX: 022-363-5503 / 022-362-6161
メール sdhwfzke@pref.miyagi.lg.jp